

# いぐだたみ

県立長崎図書館だより

No.174  
2014年11月

第3回  
企画展

## 長崎ゆかりの文学展 「長崎の俳人展」開催中

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年間4回の企画展を開催しています。今秋の企画展は「長崎の俳人展」です。

本県は、その豊かな自然や独特の歴史・風土を背景に、多くの俳人を輩出してきました。また、本県を訪れた俳人たちもその風物を素材とした秀句を多く残しています。

今回の企画展では、長崎ゆかりの俳人の中で、向井去来、田中田士英<sup>でんしえい</sup>、下村ひろし、松尾あつゆき、森澄雄などについて、その作品や関連資料、文学碑の写真等を展示し、長崎との関わりやその俳句の持つ魅力を紹介しています。



長崎を訪れて数多くの句を作った水原秋桜子<sup>しみづのあき</sup>や、下村ひろしと交流の深かった長崎市出身の文芸評論家、山本健吉の作品等も併せて展示しています。

田中田士英、下村ひろし、水原秋桜子の直筆短冊、森澄雄の直筆句幅・原稿・色紙は本館初公開です。

長崎ゆかりの俳人の豊かで深い作品世界をご紹介します。会期は12月21日（日）までです。この機会にぜひご来館ください。

### もくじ

- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| ◎ 長崎ゆかりの文学展第3回企画展 …… P 1 | ◎ 県内図書館散歩 …… P 5            |
| ◎ 第32回県立長崎図書館講座 …… P 2   | ◎ 職場体験活動紹介 …… P 5           |
| ◎ 第2回企画展、2階ロビー展 …… P 2   | ◎ 公開講座、2階ロビー情報コーナー紹介 …… P 6 |
| ◎ 資料紹介<子どもの遊び今昔> …… P 3  | ◎ お知らせ、行事案内 …… P 6          |
| ◎ 資料紹介<福島民報、福島民友> …… P 4 |                             |

## 第32回 県立長崎図書館講座

### 講演「六九年目の『長崎・そのときの被爆少女』

—『<sup>たお</sup>雅子斃れず』新資料などを紹介しながら』を開催しました。

長崎ゆかりの文学展第2回企画展「原爆文学展」に連動した文学講座を7月26日(土)に開催しました。長崎総合科学大学教授の横手一彦氏を講師にお迎えし、被爆体験記『雅子斃れず』の成立事情やその手記が現代に問いかけるものについてお話をいただきました。

講演では、当時14歳の少女だった石田（現姓柳川）雅子氏が、被爆後約2ヵ月という早い時期に長崎原爆の体験を記録した手記『雅子斃れず』は、父の石田壽氏や兄の石田穰一氏の尽力によって世に出されたことや、昨年見つけた壽氏の被爆証言音声テープの意義、被爆直後に運行された臨時救援列車に関する証言記録の内容などについて熱く語っていただきました。非体験者が体験者の思いを受け取り、原爆の原点に立ち返ろうと努力することの大切さを訴えるお話に、聴衆は聞き入っていました。

受講者からは、「被爆について考える上で、いくつもの新しい視点を伺うことができました。」「とても心に残る講座で深く考えさせられました。」等の感想が寄せられ、大変好評でした。



講師の横手一彦氏

## 第2回企画展「原爆文学展」終了



夏の企画展では、長崎ゆかりの文学者や被爆の証言者の言葉の力によって長い時間をかけて生み出されてきた「長崎の原爆文学」を紹介しました。林京子、佐多稲子、福田須磨子、山田かん、竹山広等に関する貴重資料や著書、被爆体験記『雅子斃れず』(石田雅子著)とその関連資料、また原爆に関する文学碑の写真などを展示しました。

各作家の作品や直筆原稿・色紙などを、じっくりとご覧になる来館者の姿が多数見受けられました。

## 2階ロビー展「石田<sup>ひさし</sup>壽と長崎」終了

7月8日から8月30日までの間、2階ロビーにて「石田壽と長崎」展を開催しました。被爆体験記『雅子斃れず』が雅子の父である石田壽の働きかけによって世に出されるまでの経緯や被爆後の長崎の復興に取り組んだ石田壽の姿などを写真や文書、解説パネルなどで紹介しました。

利用者の方々は長崎のために尽力した石田壽という人物にあらためて感心し、興味を持ってご覧になっていました。また、第32回図書館講座終了後、展示していた京都地裁時代の石田壽の音声テープの放送も行われ、会場にいた受講者たちは戦後日本にタイムスリップしたかのような雰囲気に取り込まれていました。





最近子どもたちが戸外で遊ぶ様子を見ることが少なくなりました。江戸子ども文化研究会の中城正堯氏は下記に紹介する著書『江戸時代子ども遊び大事典』の中で「電子情報化の進展で、遊びは個室にこもっての電子ゲームが主流となった。遊びの三条件とされる空間・仲間・時間の“三間”が消失していった(本文抜粋)」と述べています。今回は子どもの遊び今昔として、主に江戸時代から昭和初期までの子どもの遊びについての本をご紹介します。



### 『江戸時代子ども遊び大事典』

(監修) 小林 忠 (編著) 中城正堯 (発行) 東京堂出版 2014.5

江戸時代のごっこ遊び、母子遊び、玩具遊び、草花遊びなど子どもの遊び約300種を、北斎や歌麿などによる800余点の浮世絵で紹介している。「遊びの黄金期」(本文より)江戸時代の生き生きとした子供たちが描かれている。



### 『目でみる明治時代—明治風俗画集成1～3』

(編集・発行) 国書刊行会 1985.11

明治から大正にかけて発行されたグラフィック誌『風俗画報』を全3巻に編集したものの。子どもの遊びを集めたものではないが、明治時代の運動会や、子どもが大人に連れられて行く花見や動物園の様子、正月にカルタに興じる様子などが描かれている。

### 『子供たちの大正時代』

(著) 古島敏雄 (発行) 平凡社 1997.5

著者は元東京大学名誉教授。専攻は日本経済史、日本農業史。

1912年(大正元年)長野県飯田市生まれ。この本には、著者が生まれ育った飯田市の四季の行事や家事の様子、子どもたちの遊びや学校の様子などが地方色豊かに描かれている。



### 『伝えよう! わんぱくおてんば子どもの遊び』

(著) 宮坂榮一 (文) 西川夏代 (発行) 教育出版 2008.4

1926年(昭和元年)、東京で生まれた著者(宮坂榮一)が、自分が実際に経験した遊びをもとに書いた本。とおりゃんせ、かごめかごめなど懐かしい遊びの情景が描かれている。遊び方解説付き。

### 『遊びの人類学ことはじめ』

(編者) 亀井伸孝 (発行) 昭和堂 2009.6

この本は4人の文化人類学者たちが自ら日本やアフリカでサルを観察したり、人間の子どもと一緒に遊んだりして、その"遊び"を研究している。編者は「子どもに学び、動物に学ぶことで、私たちは人間のおとなを中心とした世界の見方を少しずらすことができる(本文抜粋)」と述べている。



## 資料紹介

# 《被災地の今を知る 福島民報・福島民友のご紹介》

当館で福島県の新聞が読めるのをご存知でしょうか？主に東日本大震災被災地からの避難者の方々の支援を目的として、2011年11月から福島民報、2013年4月から福島民友の受け入れをおこなっています。

これらの新聞は、復興と被災者支援に奮闘する現地の状況を知る上でも、大変有用な資料といえます。現在は、2紙とも福島県生活環境部避難者支援課から寄贈していただいています。

2014年9月18日の福島民報29面の一部。ほかにも、東京電力福島第一原発付近の海水モニタリング結果や、第一原発付近の天気や風向き、福島県内の死者数・行方不明者数なども。これらの情報は毎日掲載されています。

震災から3年を迎えた2014年3月11日の福島民友に折り込まれた特集紙。福島の復興に向けた活動をおこなっている方々の声が紹介されています。

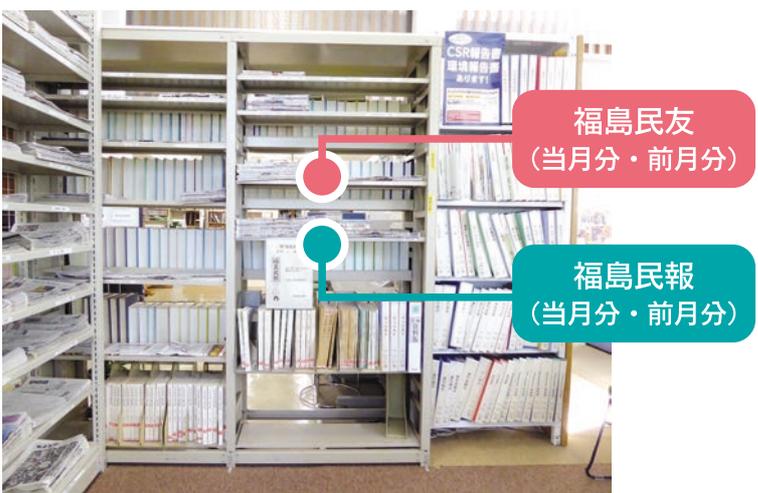
### 東日本大震災生活情報

(変更の場合あり)

原子力・放射線  
 [放射線に関する相談・問い合わせ窓口]  
 ▼放射線に関する問い合わせ窓口  
 (平日午前8時半～午後6時半、土、日曜、祝日は午前8時半～午後4時)  
 ▼原子力災害全般  
 原子力規制庁コールセンター ☎03(5114)2190  
 (祝日を除く平日午前8時半～午後8時)  
 ▼被ばく医療健康相談ホットライン(放射線に関する一般健康相談) 放射線  
 医学総合研究所 ☎043(290)4003(祝日を除く月、水、金曜午後1～4時)  
 ▼緊急被ばくスクリーニング実施施設  
 ◇公益一時立ち入り▽富岡▽毛萇▽波倉スクリーニング場(午前7時～午後8時)  
 ▼浪江▽藤橋スクリーニング場(同)津島活性化センター(午前8時～午後7時)▽大熊▽中屋敷スクリーニング場(午前9時～午後5時)  
 ◇特別通過交通▽富岡▽毛萇▽波倉スクリーニング場(午前7時～午後8時)

福島民報と福島民友はそれぞれ浜通り(相双版)と中通り(県北版)の2つの地域版がありますが、以下のように3か月ごとに互いに入れ替わっています(平成26年度の場合)。

- |         |             |             |
|---------|-------------|-------------|
| 4月～6月   | 民報：浜通り(相双版) | 民友：中通り(県北版) |
| 7月～9月   | 民報：中通り(県北版) | 民友：浜通り(相双版) |
| 10月～12月 | 民報：浜通り(相双版) | 民友：中通り(県北版) |
| 1月～3月   | 民報：中通り(県北版) | 民友：浜通り(相双版) |



当館では福島民報、福島民友ともに1年保存とし、当月分と前月分を3階の新聞・雑誌スペースに配置しています。また、遠方にお住まいの方は、お近くの公共図書館を通して閲覧できますので、各図書館へお申し込みください。

※ 福島民報のバックナンバーは、一部を別館書庫に保管しているためすぐに提供できない場合があります。

雲仙市図書館は今年開館10周年を迎えました。市内6つの分室と連携し、読書活動の推進と生涯学習の拠点として日々多くの市民の皆さまに利用されています。2台の移動図書館車は市内の小学校・幼稚園保育園だけでなく、福祉施設や学童クラブを巡回し、本との出会いの場を広げるために運行を続けています。また、教育現場とも連携し「調べ学習」や学級文庫などテーマに応じた選書を行い学校へ届けたり、雲仙市図書ボランティアグループ協議会「回転木馬」の皆さんの協力により毎月のおはなし会や季節のイベントを開催しています。

図書館の壁の半分を覆うガラスと天窓で明るい館内では、冬には日向ぼっこ席ができるほど……窓からは雲仙普賢岳を臨み、子ども達のやってくる姿も見えます。0歳から利用者登録ができるので、ベビーカーに乗った赤ちゃんも一緒に来館です。

車椅子でも楽に通れるゆったりとした書架スペースを回りながら、知識の食事、豊かな心の栄養を手にとっただけだと思います。



## 職場体験活動の紹介

～長崎市立山里中学校 2年 森崎鈴乃さん・平山由季乃さん～

今回の職場体験学習で、私たちはたくさんのことを学びました。そして、たくさんの発見と驚きがありました。普段入ることの出来ない書庫の中での作業では、その本の多さにびっくりしました。任された仕事は予想以上に大変でお客様にたくさんの本を読んでもらうためにはたくさんの努力が必要なのだと強く感じました。



森崎 鈴乃 さん



平山 由季乃 さん

# 公開講座を開催しました。

(共催事業)

8月24日(日)に放送大学長崎学習センターと共催し、公開講座を開催しました。当日は、長崎大学経済学部教授の柴多一雄氏を講師にお迎えし、「鯨組深沢家と大村藩」と題してお話をいただきました。九州で初めて捕鯨業を起こし巨万の富を築いた深沢家と大村藩との関係について、時代の動きや大村藩財政との係わりを中心にお話をいただきました。

講演終了後には深沢家、捕鯨についてたくさんの質問が出され、受講者の関心も高まっていました。講演の最後は「大村藩についての研究は、今回の内容だけでなく様々なおもしろい資料があるので、色々な方に勧めていってもらえば」という言葉で締めくくられました。



## 長崎県内観光・県政情報コーナーにお立ち寄りください。



本館2階ロビーでは長崎県内の各市町及び各観光協会から取り寄せたパンフレットやチラシ等を展示、配布しています。県内情報の収集に最適ですので、図書館にお越しの際は是非2階ロビーへお立ち寄りください。



また、長崎県が発行するパンフレット、チラシ等を展示、配布している「長崎県の情報コーナー」も設置しておりますので、併せてご利用ください。

## お知らせ

### ◎ 蔵書の点検・整理等に伴う休館のお知らせ

蔵書の点検・整理のため、下記のとおり休館します。休館中は、本の貸出・調査相談・予約の業務を休止します。利用者の皆さまにはご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。なお、休館中の本の返却については、本館玄関横の「返却ポスト」をご利用ください。

**【期間】 平成27年1月27日(火) ～ 2月5日(木)**

## 催し物のご案内

### 「長崎ゆかりの文学展」(第4回企画展)

### 「収蔵品展 ～映像化された長崎の文学～」

**【期間】 平成27年2月6日 ～ 平成27年4月5日 9:30 ～ 17:00 (ただし休館日を除く)**

**【場所】 県立長崎図書館4階郷土資料展示室**

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号

ISSN 1344-5235 ホームページアドレス <http://www.lib.pref.nagasaki.jp>